

税金が創る助け合いの連鎖

浦添市立仲西中学校 2年 佐藤 可歩

「税金を払わなくてもいい人がいるって知ってる？」

税の作文を書くことを伝えた時の母の言葉だった。私は「なぜ？」と思い調べることにした。その人達は、非課税という所得税や住民税を納付しなくてもいい条件に当てはまっていた。例えば、生活支援を受けていたり、障がい者などの人で前年の合計所得が百三十五万円以下だったりする。生活するのに苦労している人が対象者になっていた。

調べる前の私の税金に対するイメージは、税金を払うことは国民の義務で、払わなければいけないもの・年金のお金の為に払うもの程度にしか思っていなかった。しかし、私の両親が払っている所得税などが、このような生活に困っている人達を支えていると考えれば、家族を誇らしく思った。そして、私も多くの人を支えられるように将来、税金をたくさん納められるようになりたいなと思った。税金は、ただ払っているものではなく、人々を助け合っている架け橋のようだった。

私は税金に興味を持ち、税金の役割について調べてみた。税金は消費税しか知らなかったが、法人税やたばこ税などの様々な種類があった。私は、それは本当に必要なのかと疑問に思った。しかし、これらの税金は、警察署や消防署などの施設、道路や橋、上下水道の整備、学校で使う教科書や机など、私たちが生活する様々なところに税金は使われていた。税金がなければ、水は安全に飲めないし学校にも行けない。更には、街は犯罪だらけになってしまうかもしれない。税金は、この当たり前のようにある日々を形作っている大切なお金なのだ。

さらに調べてみると、少子高齢化が増税につながる原因になっていることを知った。年金や介護などの、税金が使われているお金が増えることになるが、高齢者の生活を支える若い人の数は減っているからだ。二千五十年では、高齢者一人を支える若い人は一・三パーセントになると予想されている。「増税する意味ない」などと否定的に捉える人も多いただろう。増税対策として、国の無駄な支出を減らしていくことも大事になってくると思う。しかし、まずは私達国民が、税金について深く知った上で政治を支えることが、国を動かす第一歩に繋がると私は思う。

税金は助け合いの連鎖だ。納税を通して社会を支えている人がいるから、私は学校に通え、勉強をすることができている。あと数年後には私も本格的に納税する立場になるが、ただ税金を納めるのではなく、目に見えない誰かを想って納めていきたい。そして、その連鎖がずっと繋がることを望む。誰もが安全に暮らせることを願って。